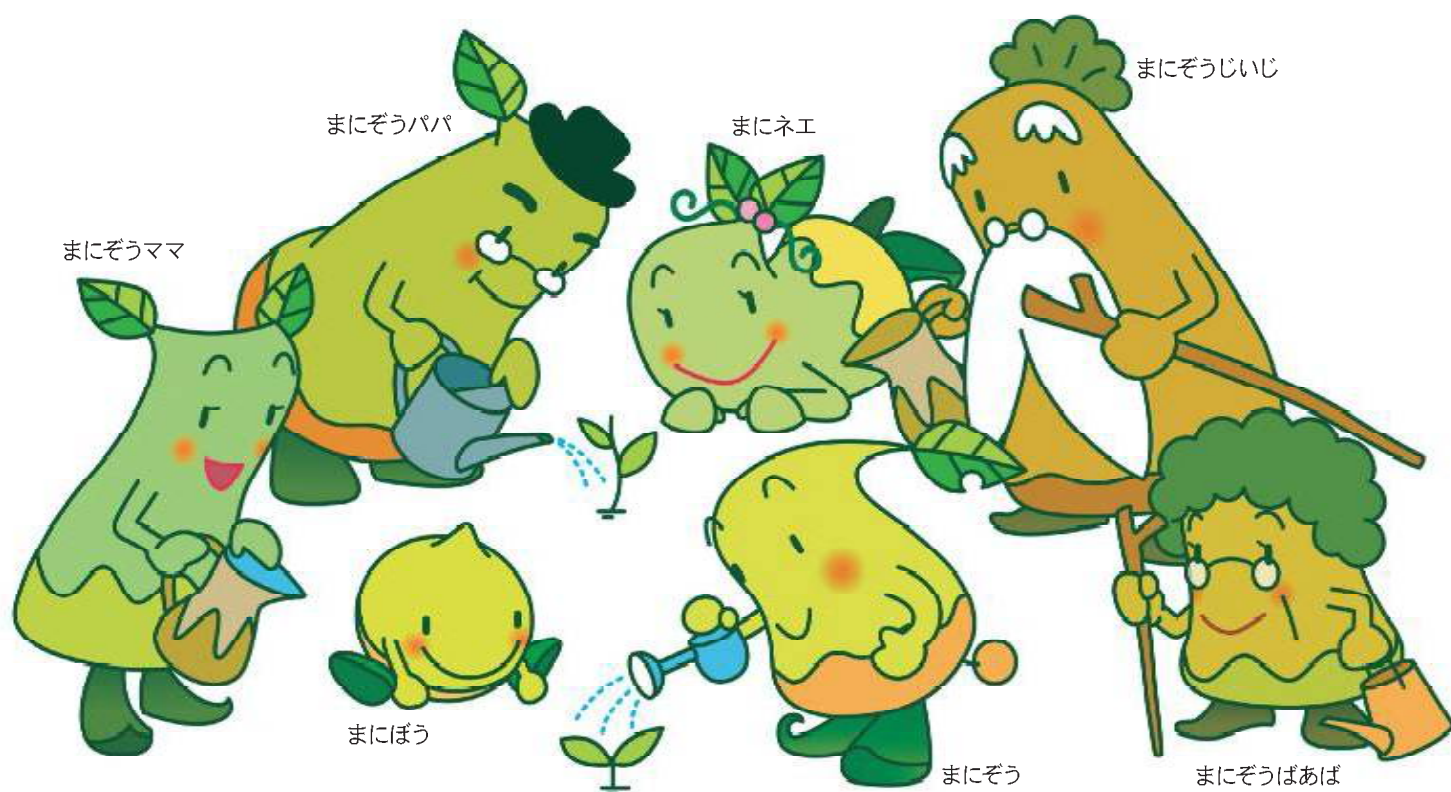


平成27年度

真庭市決算公表



市で一番大きな財布 一般会計



まずは一般会計から見てみよう。一般会計は、教育や福祉、土木といった行政サービスの経費を賄うための会計なんだ。平成27年度の歳入の総額は333億1,292万円で、歳出の総額は314億4,281万円。差し引きをすると、18億7,011万円になるんだけど、この中には翌年度に繰り越して行う事業の経費も含まれているんだ。その経費を差し引いた残りの17億8,003万円が、数値上では「黒字」ということになるんだけど、決算の中身を見てみると、問題点がいくつか隠れているんだ。次のページで歳入と歳出の内訳を紹介するよ。

このまま大丈夫？
それとも…

平成27年度の真庭市の決算がまとまりましたので、その概要を公表します。

「歳出より歳入の方が多かったから、黒字？」

「貯金が増えて借金が減ったから、将来への備えは万全？」

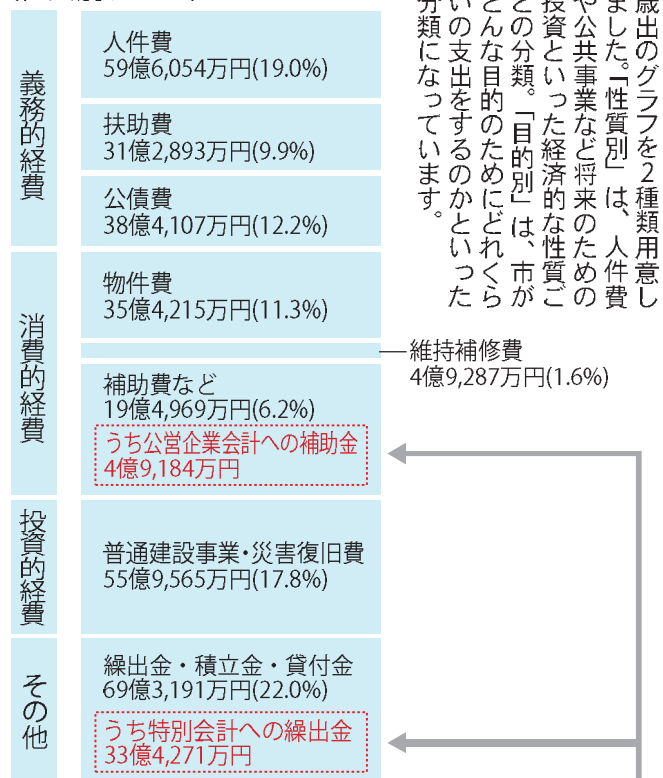
決算数値から見えてくる真庭市の財政について、まにぞうファミリーと一緒に見ていきましょう。

一般会計

歳出 314億4,281万円

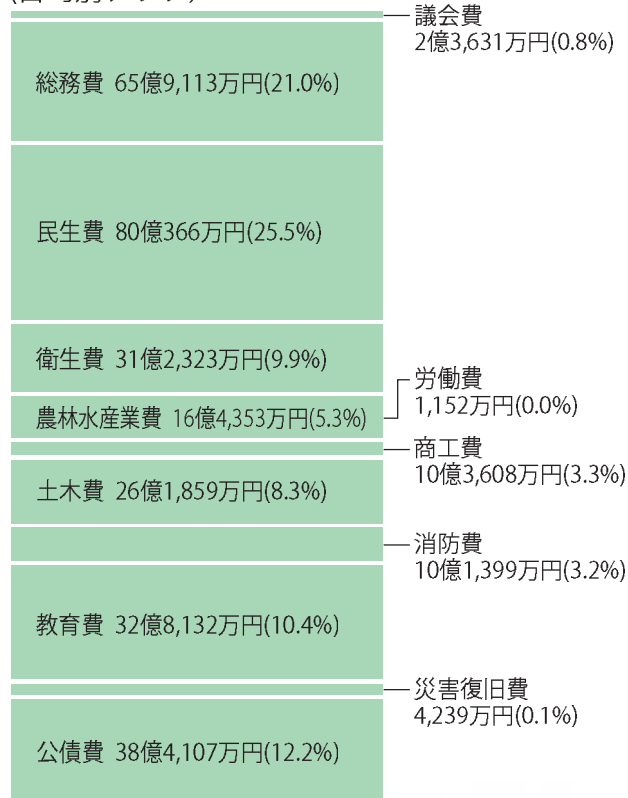
歳入 333億1,292万円

(性質別グラフ)

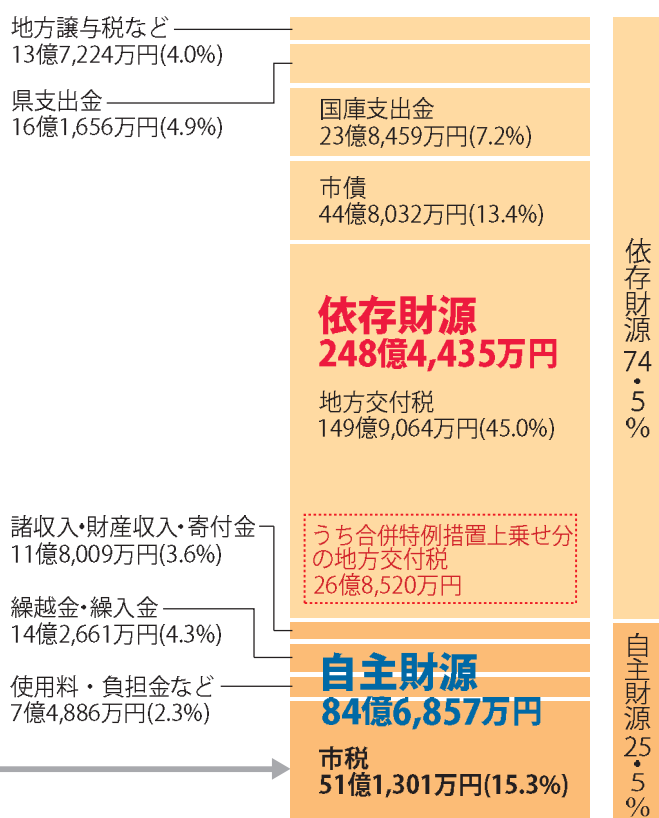


()内は構成比

(目的別グラフ)



()内は構成比



()内は構成比



ちょっと気になる市税の内訳

自主財源の約6割を占める市税の内訳は右のようになっているんだ。事業所の皆さんも頑張ってくれていて、法人市民税は増えてきているんだ。

市税の内訳	
市民税	21億2,277万円
うち個人市民税	15億8,029万円
うち法人市民税	5億4,248万円
固定資産税	25億753万円
軽自動車税	1億4,884万円
市町村たばこ税	2億9,957万円
鉦産税	59万円
入湯税	3,372万円



繰出金ってナニ？ 特別会計に出ていくお金

歳出の中には繰出金（公営企業会計の場合は補助金）が含まれているの。平成27年度だけでもなんと30億円以上。一般会計から特別会計や公営企業会計に出ていってどうということなのかしら。4ページと5ページで詳しく説明していくわね。

特別会計

特別会計の決算額一覧

会計名	歳入額	歳出額	差引額
国民健康保険事業	65億762万円	61億937万円	3億9,825万円
後期高齢者医療	6億6,920万円	6億6,869万円	51万円
介護保険事業	58億3,339万円	56億8,297万円	1億5,041万円
介護保険事業(介護サービス事業)	5,542万円	5,217万円	325万円
簡易水道事業	9億6,133万円	9億5,601万円	531万円
公共下水道事業	17億3,395万円	17億2,584万円	811万円
農業集落排水事業	6億2,553万円	6億2,423万円	130万円
浄化槽事業	1億527万円	1億404万円	123万円
分譲宅地事業	774万円	774万円	0円
津黒高原観光事業	4,141万円	4,123万円	18万円
クリエイト菅谷事業	919万円	919万円	0円
温泉事業	1億3,086万円	1億1,158万円	1,929万円
合計	166億8,090万円	160億9,308万円	5億8,783万円

**特定の事業に使うお金
「特別会計」**

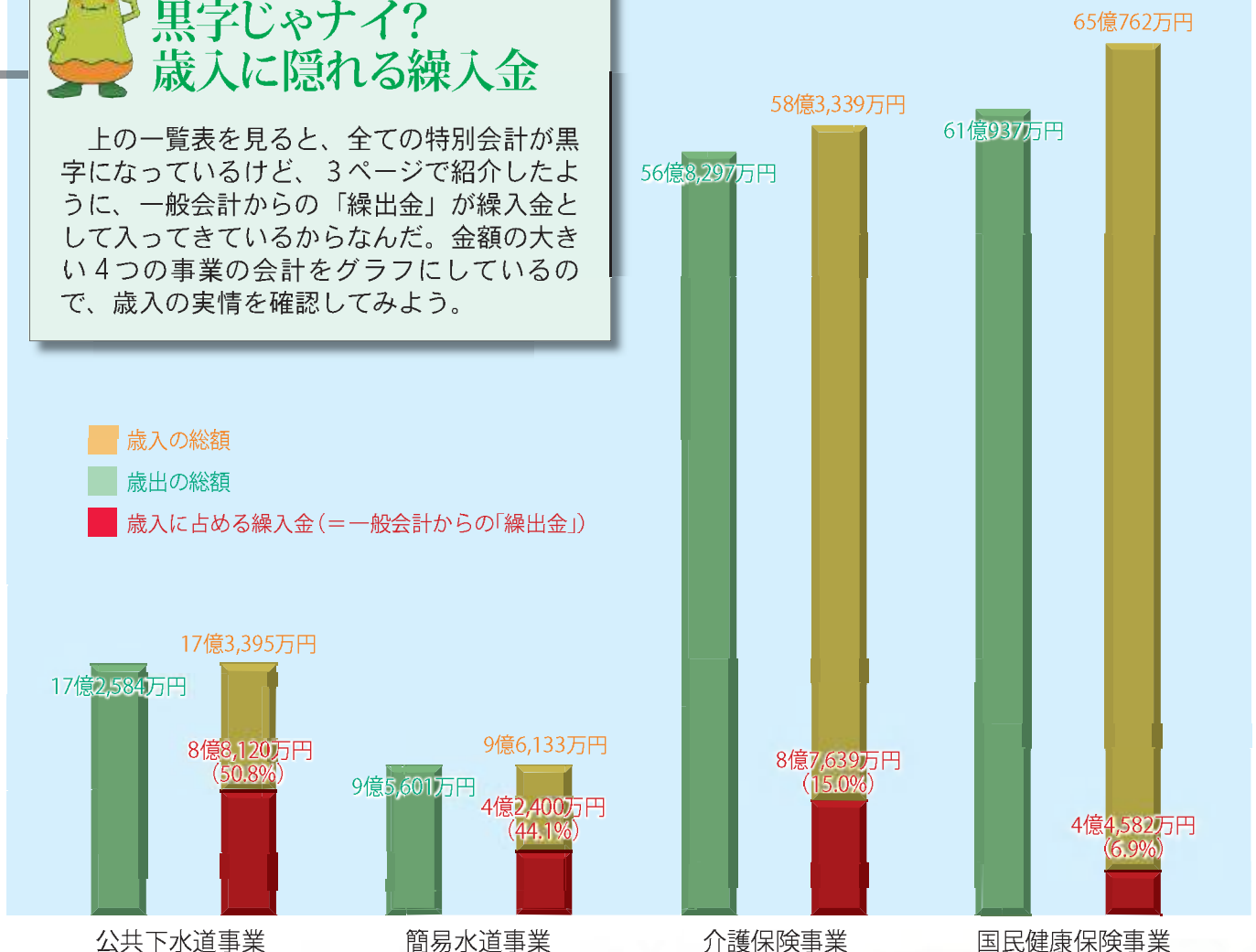
特別会計とは、特定の歳入（保険料や使用料など）をもって行う事業の会計で、一般会計とは区別されたものです。真庭市には12の特別会計があり、特別会計全体の決算額は、歳入が16億6,809万円で、歳出が16億9,308万円となりました。その概要と一緒に、一般会計からの「繰入金」の行き先を追ってみましょう。



黒字じゃナイ？ 歳入に隠れる繰入金

上の一覧表を見ると、全ての特別会計が黒字になっているけど、3ページで紹介したように、一般会計からの「繰入金」が繰入金として入ってきているからなんだ。金額の大きい4つの事業の会計をグラフにしているので、歳入の実情を確認してみよう。

- 歳入の総額
- 歳出の総額
- 歳入に占める繰入金(＝一般会計からの「繰入金」)



公営企業会計

農業共済事業会計

収益的収支(共済事業)	
共済事業収益	2億4,905万円
共済事業費用	2億4,753万円
差引額	152万円
資本的収支(施設建設などの収支)	
資本的収入	0円
資本的支出	0円
差引額	0円

水稲共済加入者は3,316人で加入面積は1,770㌥。家畜引受頭数は8,449頭。

湯原温泉病院事業会計

収益的収支(経常収支)	
病院事業収益	15億773万円
病院事業費用	15億680万円
差引額	93万円
資本的収支(施設建設などの収支)	
資本的収入	1億638万円
資本的支出	1億8,043万円
差引額	△7,405万円

平成27年度の年間患者数は69,764人。前年度と比べ2,175人の減となっている。今後も患者数が減り続けていくと…。

水道事業会計

収益的収支(水道料などでの収支)	
水道事業収益	7億2,582万円
水道事業費用	6億3,162万円
差引額	9,420万円
資本的収支(施設建設などの収支)	
資本的収入	1億4,250万円
資本的支出	4億7,569万円
差引額	△3億3,319万円

落合・久世・勝山地区で行っている上水道事業。9,738戸に対し、年間2,718,000m³を配水。

公営企業会計とは、地方公営企業法により自治体でも収益が認められている事業の会計です。真庭市には、水道事業、湯原温泉病院事業、農業共済事業の3つがあります。



基準外の繰出金ってナニ？ 基準を超えると赤字補てんに

一般会計からの繰出金(公営企業会計の場合は補助金)について説明するわね。公共下水道事業の場合だと、下水管の埋設や処理場の建設などで多くの費用が掛かっているほかに、雨水の処理費用といった経費も発生しているのよ。繰出金は、こういった加入者や利用者の負担だけでは賄いきれない部分を補うもので、国がその基準を示しているの。だから、公共サービスを維持していくためにはある程度はやむを得ない支出。でも、国の基準を超えて繰り出すと、その部分は実質的な赤字補てんになっちゃうの。

一般会計から特別会計への繰出金一覧

会計名	平成27年度	うち基準外繰入	歳入に占める割合
国民健康保険事業	4億4,582万円	—	6.9%
後期高齢者医療	2億5,912万円	—	38.7%
介護保険事業	8億7,639万円	—	15.0%
介護保険事業(介護サービス事業)	2,563万円	—	46.2%
簡易水道事業	4億2,400万円	5,623万円	44.1%
公共下水道事業	8億8,120万円	2億9,895万円	50.8%
農業集落排水事業	3億2,740万円	1億5,398万円	52.3%
浄化槽事業	6,740万円	3,753万円	64.0%
分譲宅地事業	0円	—	0%
津黒高原観光事業	2,656万円	2,656万円	64.1%
クリエイト菅谷事業	919万円	919万円	100%
温泉事業	0円	—	0%
合計	33億4,271万円	5億8,243万円	20%



落合浄化センター

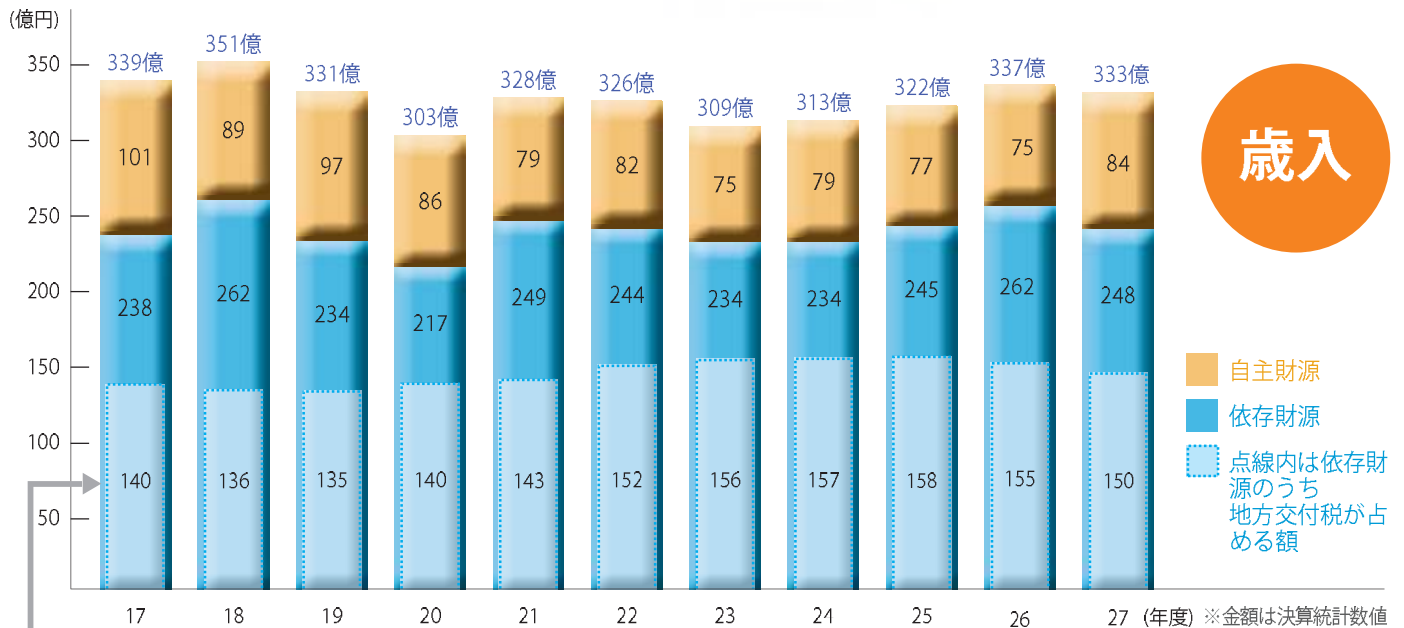


堰西上簡易水道

一般会計から公営企業会計への補助金一覧

会計名	平成27年度	うち基準外繰入	歳入に占める割合
水道事業	1億331万円	—	11.9%
湯原温泉病院事業	3億2,287万円	—	20.0%
農業共済事業	6,566万円	—	26.4%
合計	4億9,184万円	—	18.0%

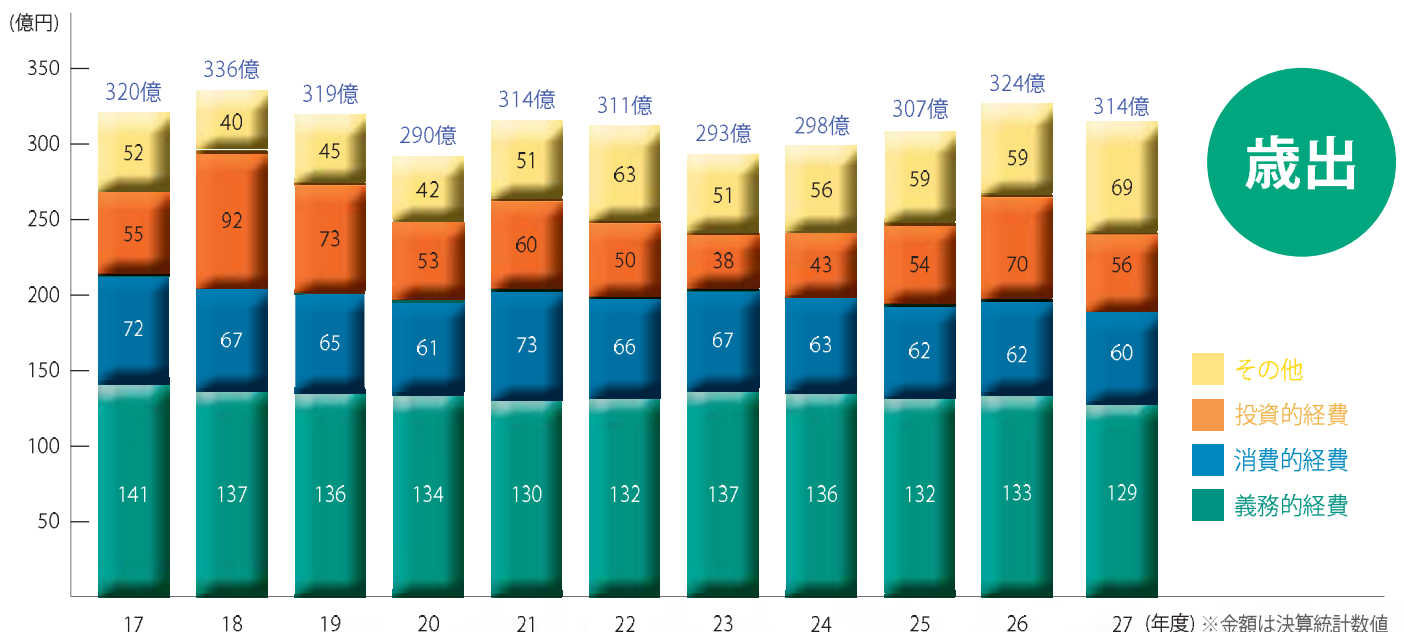
決算経過



このままで大丈夫？ 交付税への依存体質

地方交付税に依存しているのが真庭市財政なんよ。平成17年度から平成27年度までの歳入と歳出の経過を、グラフで見てみようかねえ。自主財源を増やすことを考えないとイケないんじゃないかなあ…。

平成17年度から平成27年度までの一般会計の決算状況をグラフで表しています。歳入は自主財源と依存財源に色分けしています。全体の約75%を依存財源に頼っている状況が続いています。一方、歳出は性質別に見ると、人件費や公債費(借金返済額)などを含む義務的経費が、少しずつですが減っています。また、昨年度に比べ投資的経費が減っているのは、落合総合センター建築などの大型の事業がほぼ終了し、普通建設事業費が減ったためです。



財政指標

実質公債費比率

改善

借金返済の負担が大きすぎないかをチェックする数値。市税や地方交付税のような収入に対する、公債費（借金返済額）の割合を表したもの。数値が小さいほど負担が軽いこととなります。

H26 10.7 → H27 9.2

財政力指数

文字どおり財政力を示す数値で、毎年の行政活動に必要なお金をどのくらい自治体が自力で調達できるかを表したもの。数値が大きいほど自主財源の割合が高く、財政力が強い自治体ということになります。

H26 0.310 → H27 0.310

将来負担比率

改善

真庭市が借りた借金や将来支払う必要があるものが、市の財政規模の何倍あるのかを表したもの。数値が小さいほど財政に弾力性がある自治体ということになります。基金の増加により、大幅な改善となりました。

H26 21.9 → H27 5.8

経常収支比率

改善

市税や地方交付税のような使い道が自由な収入に対して、人件費や扶助費、公債費といった必ず支出しなければならない経費の割合。数値が小さいほど財政に弾力性がある自治体ということになります。

H26 84.3 → H27 83.1

自治体の財政状況を分析するための指数が財政指標です。左の図では平成26年度と平成27年度の数値を比較しています。「実質公債費比率」「将来負担比率」「経常収支比率」の数値が改善しました。



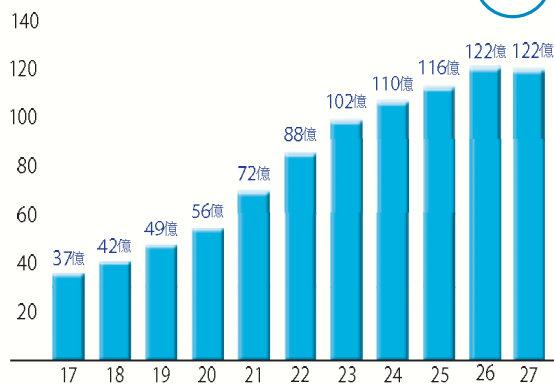
貯金増&借金減で財政指標も改善方向!? でも、地方交付税の減額でピンチに??

市の貯金である「財政調整基金残高」は増えていて、市の借金である「起債残高」は減っているんじゃない。財政指標も順調に改善しているようなので、真庭市の財政はおおむね健全といえるだろう。真庭市が何年もかけてやってきた行財政改革の成果ともいえるんじゃないが、やっぱり地方交付税の合併特例措置によるところが大きいんじゃない。平成27年度から、この合併特例措置の上乗せ分も減っているの、財政指標も悪化していくことが予想されているんじゃない。財源をしっかりと確保していきながら、事業の効率化といった歳出の抑制などにもっと厳しく取り組んでいかんといけんのう。

(億円)

財政調整基金残高の推移

貯金

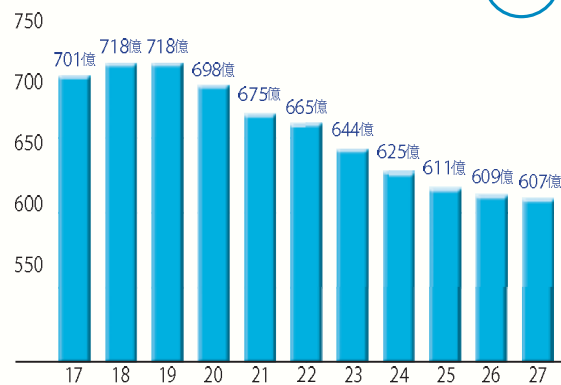


財政調整基金とは、市が毎年積み立てている貯金のことで、財源が不足する年に取り崩すことで調整し、安定的な財政運営を行うためのものです。

(億円)

起債残高の推移

借金



市債は公共施設の建設など、一時的にたくさんのお金が必要な場合の借金です。起債残高とは、市が将来返済しなければならない借金の残高のことです。

滞納金は効率的に、適切に回収します

滞納整理

取り組みを徹底・強化

平成26年度比約1億9300万円削減!!

大幅に削減！滞納額

真庭市は、「真庭市市税等滞納整理対策基本方針」および「真庭市債権管理条例」に基づき、全庁を挙げて滞納整理に取り組んでいます。平成27年度決算では滞納金総額が5億8千万円となり、前年度と比べ約1億9300万円削減しました。

担当課で差押を実施！

強制徴収公債権

市税、公課の「強制徴収公債権」は、差し押さえなどの滞納処分を行う債権で、公課においては平成27年度から、担当課が自ら差し押さえを実施しています。また、担当課で徴収困難な案件は、債権回収対策課へ徴収業務を移管すること、徴収一元化による滞納処分を実施しています。

債権回収対策課では、特に

平成28年度、滞納処分の一手段としての「搜索」に力を注いでいます。この搜索は、国税徴収法第142条に基づき滞納者の自宅などで財産の発見や生活状況を把握するために行う強制捜査で、相手の同意や捜査令状を必要としません。そこで差し押さえた動産は、ヤフーオークションに出品したり、公売会や期間入札を行ったりして、差し押さえた動産を換価し滞納金に充当します。

さらに、今年度から実施している早朝タイヤロックは、即日完納に結びついており、大きな成果を挙げています。

その他の債権

「非強制徴収公債権」および「私債権」については、各担当課が行政サービスの制限や、納付相談などを行い納付を促

します。しかし、納付意識が

希薄な滞納者へは、担当課が「支払督促」や「通常訴訟」などの訴訟手続により履行を請求します。裁判所が関与する手続により、平成27年度と同様今年度も完納もしくは分納となり成果を挙げています。引き続き、納付しない滞納者に対しては訴訟手続を実施し、訴訟手続に移行した場合は、滞納金と法的措置に要する費用などを合わせた金額を請求します。

歳入確保と

負担公平のために

真庭市では今後も厳しい財政状況が予想されます。その歳入確保のためにも納付期限内に納付した人との負担の公平性を保つことを最優先に考え、法令法規に基づき財源確

保のために滞納税、料金とその

付帯する延滞金および遅延損害金を徴収し、効率的で確実な徴収、回収を行い、滞納整理をより一層強化していきます。

滞納者の中には差し押さえた後に、「お前では話にならない。課長を出せ。部長を連れて来い。市長に言うぞ。」などと言う人がいますが、これに對しても、市長、部長に取り次ぐことは決してありませんし、差し押さえた結果が変わることもありません。

真庭市は、納付ができるのに納付しない滞納者は、絶対に許しません。

組織が一丸となって滞納整理を推進 真庭市市税等滞納整理対策本部会議

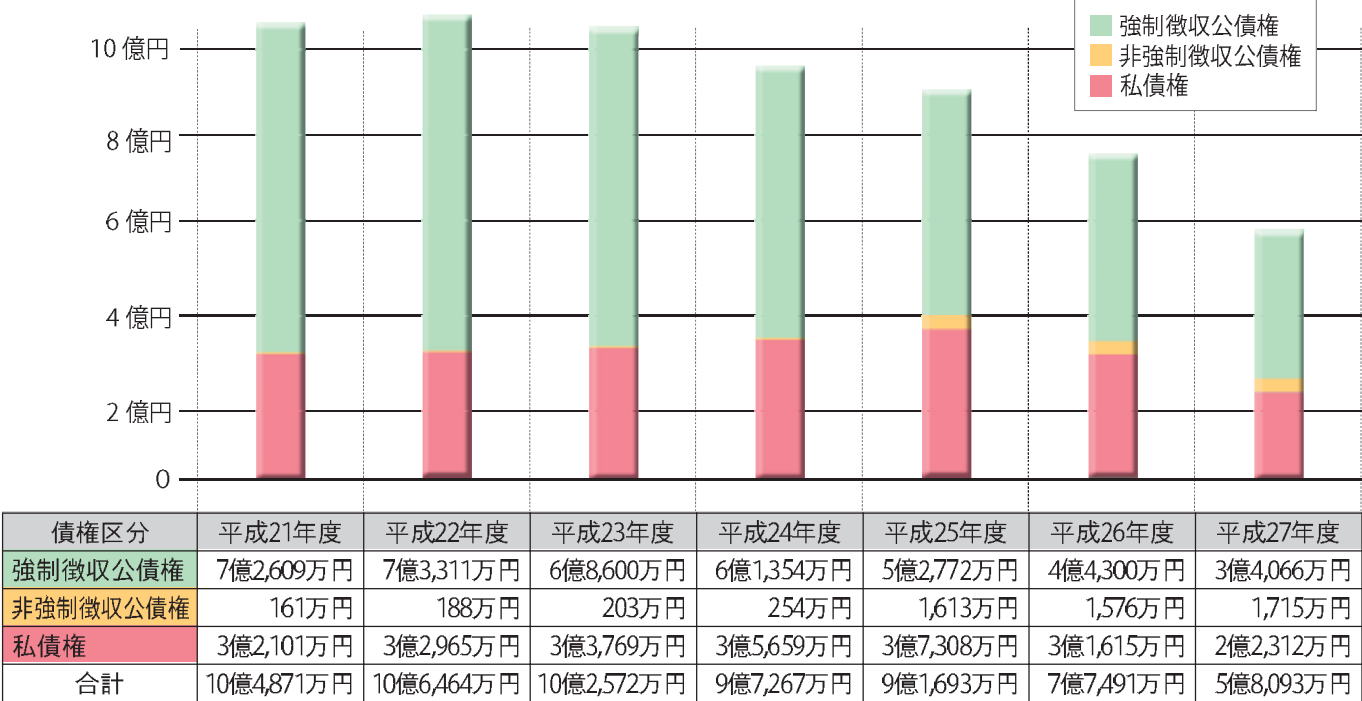
真庭市では、市税等滞納整理対策本部会議を毎年開催しています。基本方針に沿った滞納整理を進められるよう、市役所内の組織が一丸となって取り組んでいくための会議で、現状の確認や対策の検討などを行っています。



債権回収方法

回収方法	区分		主な市の債権(金銭の給付を目的とする市の権利)
強制徴収 (差押など)	強制徴収 公債権	市税	市民税、固定資産税、軽自動車税、国民健康保険税 など
		公課	介護保険料、後期高齢者医療保険料、保育園保育料、公共下水道使用料 など
裁判所が関与する回収 (強制執行)	非強制徴収 公債権	その他の債権	幼稚園使用料、生活保護費返還金、合併浄化槽・農業集落排水処理施設使用料など
	私債権		公営住宅使用料、奨学金貸付金、配湯使用料、水道使用料、病院診療一部負担金 など

真庭市の滞納額推移



平成27年度市税滞納処分(差押など)実績

区分	件数	換価額
真庭市	362件	3,933万円
岡山県滞納整理推進機構	84件	1,768万円
岡山県市町村税整理組合	44件	1,124万円
合計	490件	6,825万円

平成27年度強制徴収公債権の徴収移管実績

区分	移管債権額	収入額
介護保険料	409万円	101万円
後期高齢者医療保険料	39万円	15万円
保育園保育料	52万円	28万円
合計	500万円	144万円

差押財産の合同公売会開催!! [申込不要]

■日時 **12月11日(日)** 午前9時開場

■場所 笠岡総合体育館 (笠岡市平成町63-2)

■当日必要なもの

- ①本人確認証(免許証／保険証など)
- ②印鑑(認印可、法人の場合は代表印)
- ③代理人の場合は委任状
- ④保護者の同意書(入札者が未成年の場合)
- ⑤上履き
- ⑥購入代金

出品数
約**300**点

出品物の一例

岡 笠岡市収納対策課 TEL0865-69-2117
真庭市債権回収対策課 TEL7-42-1115(FAX1240)